

番号	分野	意見内容	姫路市対応案
1	地方創生 推進の考 え方 (当日資料)	(具体的方策に関する意見) 人口減少により若者の確保は確実ではないため、女性や高齢者の活躍という視点から、行政としての活性化策を検討する必要がある。	女性や高齢者の活躍について、第2分科会が所管する産業分野や第3分科会が所管する健康福祉分野で言及しており、これらの分野を含め施策・事業を検討していく。
2	分野目標 (案) 市民活動 分野 (P2)	(「等」に行政も含まれるとする事務局説明を受けて) 分野目標は主語が明確でない。「姫路市は～します」というのが総合計画だが、姫路市に関する記載がない。市の立ち位置を示す必要がある。	・「等」の用法については、他の分科会を含め第3回分科会での議論を踏まえて、修正する。 ・行政が市民、企業・団体、個人とともにまちづくりを行うことは前提と考えており、分野目標を実現するために、それぞれが何をしていくのかについて、目指す姿を実現するための方向性や施策・事業の中で検討する。
3	分野目標 (案) 市民活動 分野 (P2)	まちづくりをするという観点では、行政が主体として抜けているというのは違和感がある。一方で、「多様な主体」という主語を受けて「等」が入っていることについては違和感はない。	
4	分野目標 (案) 市民活動 分野 (P2)	第3分科会では、分野目標にはできるだけ「等」を使わないという話があった。団体等ではなく、「各種団体」とするのはどうか。	
5	分野目標 (案) 市民活動 分野 (P2)	分野目標の説明文について、前半は地域に関する空間的な話であり、後半はダイバーシティといった個人の価値観の話である。無理に一文にする必要はない。	第3回分科会での議論を踏まえて修正を検討している。

番号	分野	意見内容	姫路市対応案
6	分野目標 (案) 市民活動 分野 (P2)	「多様な主体が」といったときに、個人が抜けているのを感じる。コミュニティの担い手不足を考える際に、個人がどのように参画するのかというところは重要になる。	「NPO、企業・団体等」を、「NPO、企業・団体、個人等」とする。
7	分野目標 (案) 市民活動 分野 (P2)	「～多様な主体が輝くまち～」として目標が掲げられているが、それがパンフレット等で示されても、市民が明るく輝く変身するような浸透はしない。市の方針が、中学、高校等の具体的な教育の場に降りていくのか。	・総合計画の概要版や中学生版を作成し、市の方針、目指す姿を広く周知する予定。 ・総合計画策定過程で中学生から意見聴取するための「まちづくりアンケート授業」を実施し、市の方針が教育の場へ降りていくようにしている。
8	市民活動 分野 政策1 (P3)	姫路市の自治会加入率は他都市と比べても高い。一方で、都市部のマンション住民の加入率低下や、夢前、安富、香寺、家島の合併4町の高齢化が問題になっている。	多様な主体が地域活動に参加する方法を市と地域が一体となって考えていく。
9	市民活動 分野 政策1 (P3)	(自治会の組織構造に関する委員の説明を受けて) 若者が自治会から離れる理由は、自治会の仕組みがわからないからである。そのように自治会が成り立っていることを知らないだけではないか。	転入者へのパンフレット配布等で地域コミュニティ活動のPRを行っており、その他の取組みについても目指す姿を実現するための方向性や施策・事業の中で検討する。
10	市民活動 分野 政策1 (P3)	マンション居住者は自治会で協力しなければ生活環境が守れないということがないので、なかなか加入のインセンティブとして難しい。そういった新しい地域に対しては、何か自治会組織に参加するメリット等を示す必要がある。	

番号	分野	意見内容	姫路市対応案
11	市民活動 分野 政策1 (P3)	新しく来られた方は、祭りなどの寄付金募集に非常に驚く。そういったものはこれから見直す必要がある。また、行政の側も、自治会のコミュニティ活動で、地域に残していく必要があるものは、財政的な支援が必要である。	いただいた意見を担当課と共有し、施策・事業の参考とする。
12	市民活動 分野 政策1 (P3)	姫路市からも様々な仕事が自治会に委託されている。姫路市の回覧や広報ひめじの配布など。年々自治会に任せている仕事が増えている。それらの精査と、委託料の見直しも考えていかなければならない。	
13	市民活動 分野 政策1 (P3)	自治会のあり方について具体的にどういった支援の方法があるのかを考えることも必要であるし、委託内容の見直しなど、様々なことを計画の中で具体的に考えなければならぬ。	
14	市民活動 分野 政策1 (P3)	(主な検討課題イ、ウ) 「コミュニティ活動の新しい担い手を確保・育成」とか「多様な主体が効果的に協働」というのは、10年前も同じことを言っていた。ある程度NPOやコミュニティで育てているものもあるではないか。それを踏まえて新しいフレーズ、キーワードが必要になる。	

番号	分野	意見内容	姫路市対応案
15	市民活動 分野 政策 1 (P3)	今の分野目標では、地域の特性や、持続可能な話も考えられていない。協働の新しい在り方、あるいはアウトソーシングの仕組み、そういうものを「考えます」「検討します」という書き方をしてはどうか。「みんなで考えましょう」でも良いと思っている。	地域の特性や持続可能性を踏まえ、文言について検討したい。
16	市民活動 分野 政策 2 (P4)	(他分野においても女性活躍に関する言及があるという事務局説明を受けて) 人権分野では女性がどう自分の人権を守りながら、自分の進むべき道を選んでいけるかというところが重要である。労働としての女性のあり方、家庭での母親としてのあり方、そういったところも女性の人権という意味では明記していただければと思っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画は横断的な展開が必要であり、本市では男女共同参画推進センターを設置し、庁内横断的に推進している。 ・市政の展開における女性の活躍について、総合計画の中でどのように整理するか検討していく。
17	市民活動 分野 政策 2 (P4)	一般的に女性が生きる上で、選択を迫られることはたくさんあるので、そこを姫路市はどのように考えていて、女性が生きやすい市を目指しているということを明確にさせていただくことで、姫路市の魅力がアップしていくと考えている。	
18	市民活動 分野 政策 2 (P4)	「女性の活躍を推進する市でありたい」といった姿勢が見えるようにしてもらいたい。それは保育園の確保や、潜在保育士の確保といった施策に反映されると思うので横断的なものと感じている。	

番号	分野	意見内容	姫路市対応案
19	市民活動 分野 政策2 (P4)	人口減少のなかで、特に若い女性の流出（社会減）が大きな課題である。姫路市が女性にとって暮らしやすいまちであるためには、働く場所も、子育ても重要であり、それで人が増えれば良い。それは大きく一つ姫路市として打ち出すスローガンとしてもいいと思う。	(16～19は共通)
20	市民活動 分野 政策2 (P4)	相談窓口はワンストップにしないとイケない。そこに言えばどこかにないでもらえるという仕組みを横断的に作らなければならない。	専門性の高い窓口を維持するため分野ごとに分けているが、ワンストップの重要性は認識しており、いただいた意見を担当課と共有し、庁内連携の方法を検討したい。
21	市民活動 分野 政策2 (P4)	人権問題は個人の意識の問題になってしまうのでそういった意味ではいろんな分野の話になるが、ワンストップの相談窓口があるということも、意識を醸成するうえでも必要かもしれない。	
22	市民活動 分野 政策2 (P4)	女性の支援窓口などで、NPOやコミュニティ活動との協働が関わってくると思う。地域の民生委員もいらっしゃるし、活動されている方もいらっしゃる。そことどう連携、協働していくかは、行政が窓口になるわけではなく、民間が窓口になるということも考えられる。	民間の自発的な取組みについては市も推奨するところであり、いただいた意見を担当課と共有し、施策・事業の参考とする。

番号	分野	意見内容	姫路市対応案
23	市民活動 分野 政策 2 (P4)	校区人権教育活動に参加するのは役員が多い。また、持ち帰って展開している様子が見えない。	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度から校区人権教育活動に関するアンケート調査を実施し、学習会への満足度等を調査している。 ・いただいた意見を担当課と共有し、施策・事業の参考とする。